

研究データサービスに関するイベント開催 の経緯とねらい

九州大学での事例紹介

石田 栄美

九州大学

附属図書館・准教授

統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻

2020年11月4日：図書館総合展「誰がやる？研究データ管理サービス」



九州大学

自己紹介

- 2011年4月～
 - 九州大学に着任
 - 所属: 附属図書館研究開発室
 - 教育: 統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻
 - 図書館情報学、アーカイブズ学・記録管理学、情報科学
- 研究データ管理に関する研究
 - 「デジタル人文学における研究資源オープン化と研究プラットフォーム構築に向けた基盤的研究」(2015年から)
 - 学内の競争的資金(つばさプロジェクト): 異分野融合研究の促進
 - もともとはオープンデータに関心
 - 「デジタルヒューマニティーズを促進するオープンデータ環境およびシステム基盤の構築」(2018年度から2020年度)
 - 科研(萌芽)

イベント開催のきっかけ

- 2016年3月に米国の大学図書館を訪問調査
 - 目的: 研究データのオープン化に関する大学図書館での取組
 - 訪問先
 - ハーバード大学(Dataverse)、イリノイ大学アーバナシャンペーン校、カリフォルニア大学デジタルライブラリ、カリフォルニア大学バークレイ校
 - イリノイ大学図書館
 - データサービス部門が存在
 - データリポジトリのサービス開始直前
 - 関連資料
 - シンポジウム「オープンデータとデジタルヒューマニティーズ」での講演資料「米国の大学を中心としたオープンデータの現状：訪問調査から」(畑埜晃平)
 - <http://hdl.handle.net/2324/1794496>

その後の流れ

- オープンデータのための環境整備がすすむ
 - 制度的基盤
 - システム基盤
 - 人的基盤
- (大学では)オープンデータから研究データ管理へ
 - 制度的基盤
 - システム基盤
 - 人的支援
- 研究データ管理にむけたデータポリシーの検討開始
 - 単一の部局、研究者個人だけではできない
 - 研究データ管理に向けた啓蒙の必要性
 - 研究データ管理に関するイベントを計画

イベントの狙い

- 研究データ管理に関する啓蒙
 - 研究者、職員、関係部局、学生
- 日本の大学で研究データサービスは必要か
 - だれが？
 - なにを？
 - どこまで？
 - 研究データサービスの方向性
 - 日本モデルの構築の必要性
- 人材育成をするなら何を教えるか
 - 誰を教育するか
 - 必要な知識・スキル
 - 求められるマインド

「大学における研究データサービス」の概要

- シンポジウム
 - 開催日:2019年12月5日13時~17時05分
 - 講演3本+パネルディカッション(逐次通訳付)
 - 対象者:研究者、職員、学生等、誰でも
 - 参加者:80名以上
- ワークショップ
 - 開催日:2019年12月6日10時~16時
 - 3セッションからなるワークショップ(逐次通訳付)
 - 対象者:大学関係者、図書館職員、情報管理を学ぶ学生
 - 参加者:40名

「大学における研究データサービス」の趣旨

- (オープンサイエンス、研究データライフサイクルの話)
- 日本の大学においては、この研究データのライフサイクルにどのように関わっていくのか、どの部分に対する支援を行うのか、どの部局がどこまで関与するかといったモデルは、まだ確立していないといっているだろう。本シンポジウムでは、イリノイ大学図書館の研究データサービス部門におけるサービスやサブジェクトライブラリアンによる研究者への研究データ支援の実際を紹介してもらい、日本の大学における研究データサービスの方向性について議論する。
- ワークショップでは、研究データとは何か、データキュレーションに必要なチェック項目は何か、学術雑誌のデータポリシーの確認の重要性に関する演習を交えながら、研究データサービスとして何が必要かを理解することを目標とする。

シンポジウム「大学における研究データサービス」

- 講演①:
 - 「イリノイ大学図書館における研究データサービス」
 - Heidi Imker(イリノイ大学図書館リサーチデータサービス部門長)
- 講演②:
 - 「研究者に対するデータマネジメントサポートの実践」
 - William H Mischo (イリノイ大学工学図書館長) & Mary C Schlembach (イリノイ大学図書館化学 & 物理専門図書館員)
- 講演③
 - 「研究データ管理・オープンデータに関する日本の状況と課題」
 - 富浦洋一(九州大学附属図書館副館長・理系図書館長)
- パネルディスカッション
 - 日本の大学における研究データの方向性

ワークショップ「大学における研究データサービス」

- 講師
 - Heidi Imker、William H Mischo、Mary C Schlembach
- セッション1：研究データとは
 - 研究データを知る
 - 研究データの種類（生データ、underlyingデータ等）
 - 何が研究データなのか、どこまでが研究データなのか
- セッション2：学術雑誌におけるデータポリシー
 - データポリシーを知る
 - データポリシーを適用する、または従うときに直面する問題とはなにか
- セッション3：データキュレーションチェックリスト
 - データキュレーションを知る
 - 実際に何が問題となるのか

関連資料

- 配布資料

- 九州大学学術情報リポジトリ(QIR)
- シンポジウムとワークショップの当日の配布資料(日本語訳付)
 - <http://hdl.handle.net/2324/2547228>

- 講演動画(英語部分のみ)

- 講演①:<https://youtu.be/1PM0iZ1bjgU>
- 講演②:<https://youtu.be/MDunD0PLqV0>

- 開催報告

- 九州大学統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻年報2019/2020、開催報告(p.3-6)
 - <http://hdl.handle.net/2324/2559284>
- 宮崎祐汰「大学の研究データサービス／研究インパクト指標＜報告＞」、カレントアウェアネス-E、No.387、2020.03.12
 - <https://current.ndl.go.jp/e2239>

イベントの考察と今後の展開

- 全国の図書館関係者の関心の高さ
 - 学内の関係者からも
- 大学における研究データサービスの必要性
 - 大学全体を巻き込んだ体制の構築(人的、金銭的)
- 日本モデルの構築の必要性
- (あらためて)研究データ管理に関する啓蒙
- 人材育成プログラムの開発
 - 学生向け、現職の職員向け
 - 教育関係者、実務家からの意見を取り入れた実践的なプログラム